

おおぶ映画祭とは？ 上映される作品ってどんなの？

そもそも映画といえば、大型ショッピングモールによくある複合型映画館(シネコン)で上映されているものが一般的です。しかし、それ以外の映画のほうが多いのご存じでしょうか。いわゆる「インディペンデント系」(自主映画)と呼ばれる映画です。スポンサーの意向などが内容に影響される商業映画とは違い、監督自らが制作し、伝えたいメッセージをストレートに込めた作品です。

おおぶ映画祭では「映画の可能性」をテーマに自主映画を募集し、その応募作品の中から審査の上セレクトした10作品が上映されます。毎年様々な価値観をもった見ごたえのある自主映画が揃います。さらに上映後には監督や出演者が登壇してトークもあり、作品の世界観にどっぷり浸れる、まさに「映画体験」です。トークセッションでは制作者同士で映画について語り合う場を設け、クリエイターたちの今後の創作への刺激となっています。また「セントキルダ映画祭」など海外を含む映画祭等での「おおぶ映画祭作品」の上映を積極的にいき、大府から世界につながる映画祭として徐々に定着しつつあります。



2021.
9.25日
13:30~16:00

2021.
11.7日
13:30~16:00



BEFORE / AFTER 11分 監督:GAZEBO

2020年1月。この後、世界中に新型コロナウィルスが蔓延することなど知る由もなく、川久保晴は一人芝居の脚本の締め切りに追われていた。そこに突然、もう一人の自分と名乗る者が現れる。彼女は一体どこからなんのために現れたのか。

アンケートからの声
・人間の持つ本心がすごくリアルに読み取れ、感動しました。
・コロナを通じて今の自分を見直せました。
・元気をもらえる素敵な作品。



My Films 36分 監督:藤谷 東

一軒の農家で共同生活を送る四人の技能実習生。彼らが撮影した日本で過ごす日々の連なり。それらを集めて繋ぎ合わせ、映画が生まれました。

アンケートからの声
・ニュースでは悲惨な事が多いので、楽しそう良かったです。
・リアル、生きる元気をもらいました。
・もっとその人の国のことが知りたくなりました。



平成居酒屋~月の光~ 35分 監督:上島大和

2025年の日本。大阪万博中止。水道民営化、憲法9条改正、原発再稼働…。そんな状態でも居酒屋は変わらず営業している。そこへやって来る客や従業員を通して日本の様々な社会問題をコミカルに描く。

アンケートからの声
・重いテーマをコメディタッチでおもしろく見せてくれた。
・これからの日本はどうなってしまうのでしょうか…
・続編が観たくなった。



Judas Collar

15分 監督:Alison James

オーストラリアの奥地で野生のラクダが捕獲され、「ジューダスカラー」と呼ばれる追跡装置を付けられてしまう。そういった事実に基づいて作られた台詞なしのラクダの物語。2019年 セントキルダ映画祭(オーストラリア) 短編部門 最優秀賞作品

アンケートからの声
・15分とは思えないスケールの大きさ。
・動物なのに訴える力があり良かった。
・本当にしゃべったり意思を疎通させているのが伝わりました。



西園さんは今日も 70分 監督:蒲生映与

子供の頃のトラウマから、深く精神を患ってしまった大野圭一郎。その大野に医学生である西園紗良は関わることとなった。精神的に不安定な大野は、身勝手な行動で西園を振り回すばかりだった。大野も西園も精神疾患の原因を探ろうとしていたが、辛い体験から精神を守るため、大野の記憶は多くが抜け落ちていた。そんな中、わずかに思い出した高校時代の記憶から、西園は大野の伏方の糸口をつかんで行く。さらに病気の治癒を目指し、二人は高校時代の同級生に会いに行くが…

アンケートからの声
・病気を知らない機会になりました。
・ドキュメンタリーかと思うほどのすごい演技力。
・とにかく観終わってからのジリリとした印象が残っています。



ROUTINE 21分 監督:宮原拓也

無口なテツは四六時中ジャグリングに明け暮れ、恋人に家を追い出されてしまう。一方、片足の悪いミドリは、公園清掃20年、ひねくれた性格で、新たに清掃員としてきたテツにも、いつものいびり。しかし、ある時テツが掃除用具を器用にジャグリングするのを目撃。清掃にその要領を活かせることに気づく。テツとの波に翻弄された仕事のやりとりは、彼女にとって密かな楽しみになっていく。

アンケートからの声
・プロフェッショナルなジャグリングの映像に新鮮な感じで感動しました。
・言葉はなくても、関わる誰かの力になっているのが素敵でした。



利用規約の男 14分 監督:高島優毅

新人編集者・小野田は先輩編集者・北村の呼び出しにより、差し入れを届けに憧れの小説家・星の自宅を訪ねることになった。原稿の締め切りは1時間後に迫り、緊張感の漂う中で追い上げをかける星。憧れの作家が執筆する現場に居合わせることで喜ぶ小野田だったが、そこで書かれていたものは小説ではなく…時代の波に翻弄され、己のピークもとうに過ぎ、それでも書くことを諦めない男の現在地を描いた短編コメディ。

アンケートからの声
・おもしろい!!
・社会問題の一部をコミカルに表現している。
・あの小さい文字をめぐっての創造(想像)のやりとりを楽しみました。



The Egg

9分 監督:Jane Cho

退屈で寂しい生活を送る一人の少女があることを決める。それは…。異国の雰囲気漂うダークコメディ。2020年 セントキルダ映画祭(オーストラリア) 短編部門 最優秀賞作品

アンケートからの声
・クオリティの高さにびっくり。
・女の子の存在感!
・日本とは違うタッチで表現されていると感じました。

セントキルダ映画祭

オーストラリアのポートフィリップで毎年開催されるオーストラリア最大かつ、最も老舗の映画祭。大府市の姉妹都市の関係で交流を続けており、今年5月の「2021セントキルダ映画祭」では「おおぶ映画祭2020」のセレクト10作品のオンライン上映が実現しました。また、毎年セントキルダ映画祭から作品を提供いただき、なかなか観ることのできないクオリティの高い海外作品を招待上映しています。これまでに上映した「セントキルダ映画祭作品」3作品をプレゼントでご覧いただけます。

2022.
1.30日
16:00~19:00



健太郎さん 35分 監督:高木駿輝

とある町はずれの一軒家で暮らす4人の家族。斎藤家。そこには、血のつながりのない赤の他人、「健太郎さん」が住んでいる。彼を「慕う」というより「崇拜する」斎藤家と、容赦なく奇行を繰り返す健太郎さん。そんな歪に保たれた日常に亀裂が入ったある日、彼は突然「失踪」する。彼はいったい誰なのか、彼の目的は何なのか、一つの「真実」にたどり着いたその時、想像を絶する「絶望」が姿を現す。一つの事故を通して壊れた日常と、複雑に交差する人々の負の感情を描くことで、現代を生きる私たちに警鐘を鳴らす、ノンストップのホラーサスペンス短編。

アンケートからの声
・主人公のインパクトがすごい!
・観れば観るほどおもしろい。もう一度観たい。



消しかすの花 19分 監督:小池 匠

小学4年生の波田樹は友達のエリカたちと先生にイタズラをしていた。ある日、それが先生にバレてしまい、呼び出された樹は思わず、一緒にイタズラをしていた友達の名前を言ってしまった。友達の反感をかってしまった樹は仲間外れにされてしまい…

アンケートからの声
・自分の子どもの頃を思い出し、なつかしく優しい気持ちになりました。
・なんて残酷で、なんて繊細で、なんて愛らしい作品。



捨てていって 捨てないで 30分 監督:山口森広

ホテルに務める長澤ナナコは、部屋の清掃時、いつもゴミ捨ての問題に悩んでいた。ゴミ箱の横にある、飲みかけのペットボトル、葉の殻、ガーゼ…これらはゴミなのか?捨ててはお客様に怒られ、捨てなくても「あれはゴミだった!」と怒られる日々。捨てるモノ、捨てないモノ、その価値感は一瞬で変わる。次第にそれが人間関係にも連鎖していき…「捨てられるのは、私?」、自分の存在価値を他者に委ねざるを得ない現代社会から、ピクピク過ごすナナコは果たして…、ゴミかそうでないかという小さな静いから、永遠に分り合えない人間の価値観までを描く、脳内論争コメディ映画!

アンケートからの声
・人と人の理解度や認識についてコミカルに描かれ、楽しかった。
・普通はないとあらためて思った。面白い!



かく恋慕 50分 監督:菱沼康介

「もーいいかい?」夫婦でかくれんぼ。妻アキラが鬼。彼女はすごく鼻がきく。夫コウキは匂いを辿られまいと頭を捻る。ある日、夫から嫌な匂いがした。アキラは変わっていく夫の匂いに苦しむ。その姿を見て、コウキは妹カスミにある頼みごとをする。見えない匂いで愛を描く、挑戦的ラブストーリー。

アンケートからの声
・すごく感動しました。
・においから人につながる、想いが伝わる映画でした。



LOST PROPERTY OFFICE 10分 監督:Daniel Agdag

交通局の遺失物取扱所の管理人エド。ある日、エドは地下鉄のホームでおもちゃのロボットを拾う。オフィスは、地下室。数々の「遺失物」に囲まれ、それらを直す日々。しかし、回収率はゼロ。ある日、エドに異動命令が出た。遺失物全てを廃棄した上ですぐにも、と、愛情を込めて直した遺失物を諦めることができないエドが行動を起こす。2018年 セントキルダ映画祭(オーストラリア) 短編部門・アニメーション部門 最優秀賞作品。

アンケートからの声
・言葉の無い中で感情表現、空気感の表現が良かった。
・アニメーションの技術が一流。造りこみがすごい。